



東日本大震災

二〇一一年三月十一日午後二時四六分、三陸沖を中心にM・9の大震災が発生、地震による津unamiが沿岸各地を襲い、死者一万4358人・行方不明者一万1889人・避難者十三万0904人これは、震災後一ヶ月以上たった時点での現状です。
また、このとき起きた福島原発事故による放射能漏れは、今も人々を不安に陥れています。世界から見てもまさしく未曾有の大惨事。お亡くなりになられた方々に心からお悔やみ申し上げますと共に被災された方々にお見舞い申し上げます。

お礼

三月十一日に起きた東日本大震災に對しまして早速、たくさんの方からたくさんの方の義援金をお寄せいただきました。心から厚く御礼申し上げます。
みな様の温かい思いの詰まった大切な義援金を、有効に迅速に被災された方々にお届けいたしたく、緊急役員会議を開き支援の方法等を決め以下のよう活動させていただいております。



平成23年度事業計画

◎国内事業

- ・東日本大震災支援継続
- ・「ボランティア便り」の発行

◎海外事業

○インド事業

- ・孤児院運営継続

○ネパール事業

- ・エル・エンジェル校運営継続
給食
- ・ゴルフスワリー校支援継続
ミルク・肝油の配給・医療ケア
- ・ドリケル校支援

今年度は国内の災害に全力で応援したいと思っております。

皆様のご協力お願い致します。

これまでの支援の流れ

◎3月13日

海老名市を通し福島県へ

大和市・厚木市・海老名市

協賛により米軍ヘリで支援物資を送る為の義援金

◎3月16日

緊急役員会議

◎避難所への支援を申し出る

厚木市・大和市・藤沢市・茅ヶ崎市を通し避難されて来られた方へボランティアを申し出る。

後日、必要時にお願いをするとのことで待機中。

◎3月20日

平塚市避難所者宅に義援金・生活支援

28歳家族5名の所へ福島県より10名の避難者が身を寄せられている為支援

◎宮城県石巻在住方へ義援金

当ボランティア一員

◎4月1日

平塚市を通し被災地へ支援物資を届ける

◎4月5日～7日

宮城県石巻市住吉中学校へ支援物資を届ける

◎4月12日

義援金送付
送金先

- ・大槌町
- ・宮古市
- ・南三陸町
- ・南相馬市
- ・陸前高田市
- ・石巻市

※町役場とも流され振り込先の開設が遅れていた所もあり上記の振込み日になりました

5月20日以降の支援に對しましては次号お知らせ致します

テレビから災害の大きさを知り、被災されたみな様のことを思っています。いてもたってもいられない、早く助けてあげたい！それはどなたのお気持ちも同じことだったでしょう。一日も早い復興をお祈り申し上げますとともに、これ迄お寄せいただいた義援金以上に出費もかさんでおりますが、大切な私たちの国のこと、この先長く続く復興への道を、当協会も長く支援させていただきたく願っております。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

物資調達

たくさんの方の義援金のお陰をもちまして、物資を揃えることができました。K様は、ご勤務先の方海老名高校の生徒さんたちから雑巾やその他たくさん品物を、I様は、職場の方々とポータブルトイレ等々たくさんの方達からお品物をお寄せいただきました。全てをお届けすることが出来、お喜びいただくことができました。厚くお礼申し上げます。

平塚市より被災地へ

東日本大震災のニュースを見て、生活に必要な物資を送りたいと思いましたがなかなか受け入れ体制がなく、心を痛めているばかりでした。やっと平塚市役所で受け入れるとの情報が入り、市の指定の品物を皆で購入しました。

店頭では、品不足となっていた為一人一つの制限の中、皆で何店も廻り購入しました。ミルク一缶一缶には、エル・エンジェルのおましのは、エル・エンジェルのおましのメッサージを貼り、心に和む小さなぬいぐるみを添えてダンボールに詰め、軽トラックと乗用車で搬入させて頂きました。

中学校の生徒も手伝っていて、日

支援物資一覧表

平塚市より被災地へ

品物	
水・500ML	トイレトーパー
水・2リットル	ごみ袋
粉ミルク	歯ブラシ
紙おむつ高齢者用	携帯用歯ブラシ
マスク	郵便ハガキ

避難所 宮城県石巻市住吉中学校

品物	
自転車(新品)	老眼鏡
ポータブルトイレ	針セット
ガソリン	ウェットティッシュ
サンダル	紙コップ
スリッパ	ガスコンロ・ボンベ
長靴	歯ブラシ・歯磨き粉
グンゼ下パンツ男	ハサミ
グンゼショーツ女	雑巾
オムツ L・M	洗濯バサミ
カシミアロングコート	デッキブラシ
女性用靴下	ホウキ
男性用靴下	ちりとり
ソース	ゴミ袋450
インスタントみそ汁	ゴム手袋
味噌	ゴム厚手手袋
業務用醤油(大)	業務用ハイター(大)
カレールー	トイレ吸水スポン
業務用マヨネーズ	業務用台所洗剤(大)
業務用酢(大)	シャンプー(大)
じゃがいも	リンス(大)
人参	ハガキ・ペン
玉ねぎ	ガムテープ
レトルトカレー	ボールペン
レトルトハヤシ	ポストイット・ノート
さんま缶詰	クリップ
漬物(大根・白菜)	ブルーシート
小饅頭	培養土
お菓子詰め合わせ	軽石
紅茶	花(パンジー)
コーヒー	種(いんげん・朝顔等)
砂糖スティック	プランター
タオル	子供遊具
マスク(大箱)	その他

本中の人達が元気になって欲しいとの思いでいることを感じました。

エル・エンジェル国際ボランティア協会として、皆様のお心を市を通して届けさせて頂きました。

心一杯の荷物

毎日テレビにくぎ付けとなり涙し、自分に何が出来たのだろうかと問うていました。エル・エンジェルボランティアの方々から熱い思いが続きと届き、皆様の心をしっかりと受け止め行動をしなければとの思いが溢れていました。会長の「現地に行きましよう」声がかかった次の日の深夜に出発するまで各ボランティアさんが

現地の要請に添って又、こんなもの必要だろうとそれぞれが一生懸命品物を揃えました。2tのロングトラック一台・ワゴン車一台、総勢8名で海老名本部を出発。ガソリン60リットル・自転車8台・ポータブルトイレ6台・グンゼ下パンツ男・女900枚等々皆様のお気持ちを持ってトラック一杯に詰め込んで行かせていただきました。皆様からお寄せいただいた義援金の重さを思い、早く早くと気はとてもせいでいりましたが、ガソリンが、道路がと、障害が多く四月となつてしまいました。現地は現実とは思えない風景でした。テレビで子供が「あの日の2日前に戻りたい」と言っていた言葉がよみがえりました。

この現実を私は忘れてはならないと思いました。

皆様のお気持ちを最大限に生かして被災者の方々に届けることができたこと本当にありがとうございます。



石巻避難所を選んだ記

未曾有の震災から四日目、石巻に住むNさんから電話が入り「全部流されました。今、石巻の住吉中学校に母と避難しています。やつと携帯電話で」。元氣のないお声ながら、お声を聞くことができ、生きていてくれた奇跡に心が震えました。

彼女は、東京勤務の時から当ボランティアに参加してくださっていて今は実家である石巻に住まわれています。石巻市は、死者2482人、行方不明者2770人と大きな被害を受け、水が引くのも遅く支援が遅れていました。

住吉中学校には被災当初は2000人が避難され、廊下までいっぱいに寝泊りされていたそうです。

被災地での要望が日ごと変わる中、彼女とのやり取りで、車の通行のことや、避難されている人数や（訪問時点で300人前後）、要望されている物を知ることができ、支援物資をお届けできました。

被災地を訪れて

まだ、寒さのために吐く息が白い、早朝の宮城県石巻市。5日（火）の深夜から、ドライバーのSさん・Kさんが、本部のある海老名から、殆どノンストップで車を走らせて下さり、6日（水）早朝、無事に宮城県に到着しました。海岸近郊の街・・・ここはホントに日本だろうか、と疑いたくなるような、破壊的な、心痛

む景色が広がっていました。海岸から避難所に向かう道すがらにある、かろうじて全崩壊を逃れた家々の壁、それから避難所の壁にも、押し寄せた波の高さがくつきりと刻まれ、破壊的な津波の大きさを物語っていました。

避難所となつて住吉中学校での、トラックいっぱいに積み込んだ支援物資の荷降ろしには、エル・エンジェルボランティアスタッフだけでなく、避難所で支援をされている先生や生徒、近隣の方々がお手伝い下さいました。

現地ニーズにあった物資の調達を・・・と会長を中心に、野菜・他食料、衣類・下着、おむつをはじめ、貴重な移動手段となる自転車や、排水溝・トイレの詰まり取り（津波の汚水・泥によるつまりを除去する道具）等、即利用可能な物資を調達し、被災地に届けることが出来ました。

また、支援物資として持参したサッカーボールや遊具をみつけた子供達は、満面の笑顔を見せてくれました。また、少しでも心の癒しになるようにと、避難所にある花壇に届けた黄色の小さなパンジーの花。そして野菜の種。どうか、この小さな黄色の花びらが、少しでも人々に元氣を与えてくれますように。

そして、野菜の種が芽吹く頃には、少しでも人々の心の痛みが和らいで、希望の種が芽吹きますように。日常の生活で当たり前だった事柄や、

他多くのものを失い、明日が見えない状況で日々を過ごす人々の本当の辛さを理解するのはたやすいことではありません。

そして、被災地とそこに住む人々が通常の生活に戻るには、長期に渡る支援の手が必要となるでしょう。一日も早く、一人でも多くの人が、心からの笑顔を取り戻せるよう、復興を祈るとともに、私達個人にできる事、そして社会としての取組みを、今一度考え、長期に渡り、継続・実行していければと思います。



そこにある思い

避難している方が、小さなことにも「申し訳ない」と思いながら過ごす辛い毎日で、授業が始まる為、撤退を迫られていて、皆さん本当にギリギリの精神状態でした。

避難している人を支えようと、全国から届く支援物資やパンを分けるのに不公平が無いようとても気を遣う被災者でもある不眠不休の先生方。炊き出しをして各避難所に配ったり、未だお風呂に入れない現実の中、お

風呂の準備と送迎をしている自衛隊員。地震翌日から車中で寝泊りしている足の不自由なボランティア。高校球児の清掃ボランティア。大阪からの医療チーム。温かいうどんと温かいお絞りで体を拭いてもらおうとする極め細やかな思いで大阪から駆けつけたボランティア。高速道路を走る全国からの支援の車。多くの思いがそこにありました。

未だテレビで見るとそのままの瓦礫の山の映像が目の前に広がり、通ろうとした道は瓦礫で阻まれ、無残な光景をカメラで捉えながら、一ヶ月たってもこの状態、これでは本当に復興するのにどれだけ時間がかかるだろう、どれだけ力が必要なのだろう、そう考えると胸が痛くなりました。この災害を受け入れ、一人ひとりが多くのことを学んでいかななくてはならないのだと思います。私自身、皆様のお力になれるよう今までの生活を省みて、自分にできることを頑張っていこうと心から思いました。

石巻の避難所にて

石巻の避難所を訪れた折、中学校の広い体育館で、間仕切りもなく、薄い毛布を敷いて不自由な生活をしておられる大勢の方々のなかに、ただ杳然と放心されている様子の一人のご老人の存在が気になった。自分と同じくらいの年齢で、おそらく家族を津波で亡くし、家や家財道具も流されて、体ひとつで避難所に来ら

れたのであろう。今、この人にこれからの夢、希望があるのだらうと、また多くの支援物資よりは大地震前の家庭や家族のぬくもりを切に思っておられたことであらうとの思いを馳せた。若し、自分がこのような境遇になつたら、寂しさ、つらさに耐えられないだろうと自問自答してみた。毛布の上で力なく横たわっている姿に暫く目をやりながら、少しでも早く被災された方々が今までの普通の生活に戻られることを心の中で祈らざるを得なかつた。

思いやる心

あかあかと照らす電気があつて当たり前、溢れるほどの水で顔を洗いハミガキをし、洗い物をする、当たり前。何一つ感謝することなく当たり前でいた、それが当たり前ではない現実を見、いかにせいたくに自然を壊していたかを思いました。関東では、計画停電が実施されすべてが電気で動いていることを改めて知りました。電気がないとこんなにも困るのかとうろたえました。今私に出来る事、今までの生活を見直すこと、今までの考えを見直すこと、痛みを悲しみを共有すること、ズーと忘れないこと。被災地で子供さん達は明るく元気に振る舞っていました。強い心が育っているように思えました。思いやる心が育っているように思えました。日本中が優しい心で満ちているように思えました。それでも被

災者の悲しみは続いているということに刻みます。一年たつても二年たつても三年たつても忘れてはいけないと思います。

先生はすごいの！

「避難所で中心になつてお世話されている当校の先生方は、ご自分たちも大きな被害を受けられていらっしゃるのに不眠不休でお世話くださっているの、その姿にみんな頑張れているのだと思います。」

テレビの前で、声も涙も出ないくらいシヨック状態だった時、彼女からのこの言葉は心にふかく深くしみましました。

支援物資を届けた当日も、対応やお手伝いをしてくださったのは先生方でした。物資をご覧になられ「今、欲しかった品です。避難所にお知り合いの方がいらつしやるのですか」お疲れ気味のご様子ながら、優しいまなざしでそんな言葉さえかけてくださっていました。



女性教師の話された「生徒を助けることが出来なかつたことが悔やまれてなりません」―被災したご自分の家のことより生徒のことを思われ涙ぐまれるお姿に、男性教師の被災されたみな様に身を呈して勇気を与え続けられているお姿に、生徒も地域の方もどんなにか勇気づけられ、この先も先生に対する信頼がより強まり、人間的にすばらしい生徒が育っていくことでしょう。このことを全国の学生や御父兄の方にお伝えしたいです。「先生はすごいのよ！いつもいつもあなた達の力になつてくださるの！」と。

消えてしまいたい・・・

胸に顔を埋めてこられ、「消えてしまいたい」小声でもらした言葉。

彼女の悲痛な思いが心に深く残り、疼きます。

避難生活も3週間以上たち、当初は、2千人ほどいた方たちも一人減り、二人減りとして行く中、帰る場所の決まらない人にとつては、先の見えない不安と、体にくい込むようなお疲れとで、どんなにか辛く寂しいことでしょう。

「我が家にいらつしやい。」と真剣にお伝えしても、77歳のお母様が「この地を離れるのはどうしてもイヤだと言うんです。」親思いの彼女の心を思うと、辛く、「消えてしまいたい」この言葉がいつまでも離れません。

インド・ネパールからの心

◎インド スリカラム地区の孤児院の子ども達がテレビで日本の大地震・津波のことを知り、子ども達は涙を流し「日本のお父さん、お母さんは大丈夫だろうか」と心配して、**全員でおやつを食べないで、そのお金を貯めて日本に送ることを決心して地震の翌日の十三日から好きなおやつを止めているとのこと**です。

食べ盛りの子ども達が何より楽しみのおやつを我慢して、日本のことをこれほどに心配しているやさしい心に感動しました。これもひとえにご支援下さる皆さまのお陰と感謝申し上げます。

◎インド ビシヤカパトナム・ロータリークラブの有志の方々より、大地震に対する義援金の申し出がありました。当協会に直接送金することができないために、インドの日本大使館経由で日本赤十字社へ義援金を寄付していただきました。

◎ネパール エル・エンジェル校運営委員のリシ氏から、三月十三日日本の皆さんの安否を気遣って電話がありました。

ネパールの人達は大好きな日本のボランティアの皆様の心配しておられるとのこと

水不足の中で

福島原発事故により水道水に放射性物質が含まれ乳児の飲料を止めるようとの知らせがあり、関東エリアに住む人は恐怖に慄き、飲料水を求める人たちが水はどこも売られず自力で水を探し、水切れとの報道に、地方の水を求める人も多く、日本何処もかしこもボトル入りの水不足現象の中、広島より本部に500ミリリットル入りの水をたくさんお届けいただきました。

広島でもお店から水が消えた中、彼女はリュックを背負いガラガラを引っぱって何ヶ所も自販機を回り集められた貴重な水でした。

また、震災直後からご夫婦で何度も手伝いをお申し出いただき、心強く思わせていただいています。みな様のお役にたいしたい！との温かい思いに溢れたお水、I様ご家族のお心に深い感謝を捧げます。と、ともにボランティアの真髓を感じさせていただいています。

お続けいただきたい

しんわ図書館の充実

今年も進和学園本人自治会連合会様より、平塚市市庁舎で他の団体と一緒に当協会に寄付金を頂きました。

十年前にほんの少しの出来事を感謝で受け取って頂き、以来当協会に協力して頂くこととなりました。

出合いの不思議さと、ご縁をありがたいと思っております。

ネパールのエル・エンジェル校のしんわ図書館をますます充実させ、現地の生徒に喜んで利用してもらいたいと思います。

献金の重み

平和学園様よりクリスマス会のご父兄様からの献金の配分を今年も当協会にいただきました。

企業の力

ボランティアに参加下さっているI様の企業からネパールの子どもたちへの教育にご寄付をいただきました。

毎年お続けいただくことの重みと、お心に感謝申し上げます。

○ “共に助け合いたい”それが私たちの願いです。ご協力、よろしく願いいたします。

- 支援金振込先 郵便口座 口座名 特定非営利活動法人エル・エンジェル
記号 10290 口座番号 68107191
- ゆうちょ銀行 口座名 特定非営利活動法人エル・エンジェル
店名 (028) 店番 (028) 普通預金 口座番号 6810719
- 三菱東京UFJ銀行 口座名 特定非営利活動法人エル・エンジェル国際ボランティア協会
海老名支店 (409) 普通預金 口座番号 0966597

報告とお礼

「大切な思い出の結婚指輪、思い出よりもネパールの子ども達へ役立ててくださいます。」と、尊いお心も添えられ、ご寄付頂きました。又テレホンカード、切手等々皆様のお心でたくさんのご寄付を頂きました。四月から三月までの一年間で合計金額は686,155円になりました。子ども達に給食や、栄養補給の為の肝油・牛乳を支給できます。ありがとうございます。

今後も引き続き、商品券、ビール券、クオカード、旅行券、図書券、貴金属、テレホンカード、ハガキ、切手など集めています。ご協力、宜しくお願いいたします。

町田 成瀬台まつり バザー

7月30日(土) 12時～

7月31日(日) 2時～

子どものくじを作りますので本の付録・新品の小さなおもちゃ・文具類・景品・遊戯王カード等子どもが喜びそうな物、また手作り品・シユシユ・髪かざり・アクセサリーのご寄付をお願い致します。

当日は人手が足りませんので販売のお手伝いしていただける方を募っています。よろしくお願い致します。

編集後記

被災地を訪ね現状をお伝えしようと思いを込めて書かせていただきましたが、未曾有の災害の現実の厳しさを文章で表現する厳しさを痛感しています。被災地の復興のためバザー等もつと頑張りたく思っています。

(E)